

秘書検定の学習を取り入れたキャリア教育で、新しい大学入試に向けた力を育成する

大成女子高等学校

(茨城県水戸市)

明治42年に茨城県初の私立学校として開学した大成女子高等学校。創立以来、「誠実・協和・勤勉」の校訓のもと、「社会に役立つ女性の育成」を掲げ、女子教育にまい進してきた。平成28年に学校設定教科「キャリアデザイン科」を立ち上げ、キャリア教育を実施。高い進学率につながっている。秘書検定の学習を取り入れたキャリア教育の取り組みを報告する。



大成女子高等学校。
県内で最も古い私立学校

社会との関わりを重視した女子のためのキャリア教育

大成女子高等学校は、明治40年に開設された裁縫塾を前身とする茨城県初の私立学校だ。明治42年に開学し、来年初立110周年を迎える。同校が目指す教育を大金喜代子教頭は次のように話す。

「本校は裁縫塾を起源としています。古くから受け継がれてきた。社会で役立つ女性の育成を守りながら、時代の変化に合わせた女子教育を行っています。学科の編成を行いながら、スペシャリストやプロフェッショナルを育てる環境を整えてきました」。

学科は普通科と家政科、看護科の三つ。どの学科にも共通するのが、社会との関わりを重視していること。企業と協力して商品開発を行っ

たり、現場で活躍するプロフェッショナルを講師として招き、実践的な授業を展開する。社会との関わりを重視する理由は、数年前から力を入れているキャリア教育にある。

「女性の活躍が、社会で大きく期待されています。その期待に応えるためにも、社会で求められる能力や立ち居振る舞いを身に付けさせる必要があります。本校では平成28年に学校設定教科「キャリアデザイン科」を立ち上げました。全学科でPBL（課題解決型学習）を導入した授業を行い、社会で必要とされる力の習得につなげていきます」（大金教頭）。

とりわけ普通科の「キャリアデザイン」は時間数が多く、内容も本格的だ。1年次の「キャリアデザインI・A」では、課題の見つけ方や解決策の出し方、アイデアを実行に移す方法を学習する。また手帳を活用し、PDCA（Plan＝計画、Do＝実行、Check＝評価、Action＝改善）を習慣化したり、インターンシップで職業の適性を確認するなど、キャリアを形成する上で基盤となる土台を築く。さらに、社会人基礎力を習得するために、秘書検定3級の受験を導入した。「普通科の1年生全員が、秘書検定3級に挑戦しています。秘書検定の内容は、あいさつやお辞儀の仕方、言葉遣い、ビジネスマナーといった社会人に求められる基本的なことが網羅されています」と話す大金教頭。学びを役立てている生徒の姿を思い起こす。

大金喜代子教頭



大津雅幸先生

社会への意識を強くする 秘書検定の学習

「1年次の3学期にインターシッピングを実施しています。生徒には、受入先の企業にアポイントメントの電話をさせています。秘書検定で学んだ電話対応のスキルが役立っているようです。丁寧な言葉遣いで抑揚を付けて、電話口で話している様子を見て、秘書検定を導入した成果を感じています」。

秘書検定の学習は、自学自習が基本となっている。学校から配布されたテキストと過去問題集を使い、学習を進める。秘書検定3級に合格した2年生に話を聞いた。

會澤うららさんはこう振り返る。

「過去問題を解き、間違えた部分はテキストで確認して理解する。これを繰り返しました。ビ

ジネス文書は特に難しかったです」。

山本摩莉乃さんも過去問題を活用した。

「繰り返し解くのがポイントです。何度も解くことで秘書検定の問題に慣れます。言葉遣いやビジネス用語は暗記しました」。

野上沙耶さんは時間の使い方を工夫した。

「配布されたテキストとは別の参考書を購入し、通学時や就寝前の時間を使い勉強しました。普段の学校生活では触れることのない単語や、聞いたことがあってもきちんと意味を理解していない単語も多く、覚えるのが大変でした」。

工夫を凝らした3人。秘書検定の学習を通して、どのような力が身に付いたのだろうか。

「社会で働く上で必要なマナーが身に付いたと思います。先生方や目上の方への言葉遣いや態度が、秘書検定を勉強してから変わりました。より丁寧に正しくできるようになり、自信が付きました。将来の夢は、ウエディングプランナーになること。お客さまへの接し方やビジネス文書などの書き方も生かしていきたいです」(會澤さん)。

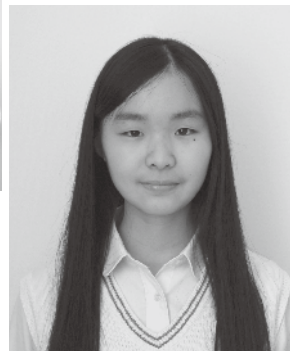
「秘書検定の学習を通して、知らない常識がたくさんあることに気付きました。はじめは知識が足りないことに焦りを感じましたが、学習をして、多くの知識が身に付いたと思います。フィールドワークなどで年上の方と話す機会



野上沙耶さん



會澤うららさん



山本摩莉乃さん

が多いので、敬語を使えるようになったのもよかったです。社会に出たとき、社会人としての心構えや考え方が役に立つと思います」(野上さん)。

「人への接し方や日常での立ち居振る舞いが丁寧になった気がします。秘書の気遣いを学んだことで、普段から周りに配慮して行動するようになりました」(山本さん)。

秘書検定2級、準1級の合格を目指す生徒も多くいる。2・3年次の「キャリアデザインⅡ・B」では、秘書検定2級を学習している。

秘書検定の受験を取りまとめている大津雅幸先生はこう話す。

「2・3年次のキャリアデザインには、五つのフィールドがあります。その一つである『ホス

最新事情 43 大成女子高等学校



各学科でフィールドワークを実施。「普通科では、地域文化の魅力を発見したり、地域の特産品を使った商品開発に挑戦。家政科のファッションショーではドレスのデザインから生地選び、制作まで行います」(大津先生)

ピタリテイ』では、秘書検定2級の合格に向けて学習をします。このフィールドを選択していない生徒でも、秘書検定を受験することができます。本校は準会場ですから、学校で受験できる利点を生かして、多くの生徒に挑戦してもらいたいのです。

秘書検定2級の学習も、生徒の成長につながっているようだ。「進学や就職の面接を練習する際、秘書検定の

学びが役立つと感じます。入室から退室までの流れが、きちんとしているのです。1年次の授業「礼法」で、あいさつやお辞儀、歩き方、座り方などの基本動作を学ぶので、過去に学んだことを復習するよい機会にもなっていると思います。女性らしい美しい立ち居振る舞いができるのは、彼女たちの大きな強みになるはず。今後、さまざまな場面で生かしていけるでしょう」(大津先生)。

成長につながる挑戦を後押ししたい

「キャリアデザインⅡ・B」のフィールドは、実に多彩だ。「ホスピタリティ」の他に、「保育・幼児教育」「看護・医療」「アート表現」「地域デザイン」がある。身に付けたい力や進路に合ったフィールドを選び、社会と関わりを深めながら学びを進める。

「教育機関、医療機関や介護施設での実習をはじめ、商品開発にも挑戦しています。干し芋や梅、湯葉などの茨城の特産品を使い、企業と協力して茨城の魅力を発信するのです。生徒はアイデアを出すだけでなく、業者の方にOKを頂くまでプレゼンし、商品が完成するまでやり通します。チャレンジすることが大事。その経験は社会で必ず生かれます」と大金教頭は力強く話す。

「チャレンジすることが大事」という言葉通り、各種検定やコンクールにも意欲的に挑戦してい

る。

「家政科では、食物調理技術検定や被服製作技術検定などの家政分野の検定で1級の合格を目指しています。プロに指導をお願いすることもあります。大会やコンテストで入賞した実績もあり、それが生徒の自信となり、成長へとつながっているのです」と大金教頭は確信し、女子教育への決意を固くする。

「結婚、出産、育児と、女性のライフステージはさまざま。どのような状況においても、自分が納得できる道を選べる女性になってほしいのです。本校のキャリア教育が、彼女たちの未来を明るくすると信じています。伝統を受け継ぎながら、今後も女子教育にまい進していきます」。



1年次に週1時間ある授業「礼法I」で、小笠原流の礼法を学ぶ。あいさつの仕方や言葉遣い、立ち居振る舞いなども学び、「立つ」「座る」「歩く」「お辞儀する」の基本動作を習得する